

第17回 伊藤満さん（国立病院機構久里浜医療センター）

日本心理学会若手の会コラムリレーでは、若手のみなさまに、ご活躍されている領域や普段の生活についてご紹介いただきます。

第17回目は、伊藤満さん（国立病院機構久里浜医療センター）にご執筆いただきました。

「やめられない、とまらない」。ダイエット中にお菓子を食べすぎたり、試験直前の大事なときにゲームにはまってしまったり……。この程度のことであれば、誰もが経験しているかもしれません。それでは、どれほどの人が診断基準を満たすほどに「やめられない、とまらない」状態になっているのでしょうか。厚生労働科学研究の報告によると、日本人男性の8.8%がギャンブル障害に該当するそうです。また、お酒をコントロールして飲むことができないアルコール依存症者は107万人（うつ病の推計患者数とほぼ同じ!）、酒量を減らす必要のある大量飲酒者は約1000万人いると推計されています。依存症は本人の健康を害するだけでなく、さまざまな社会問題（自殺、借金、DV、飲酒運転など）の原因にもなることから、その対策の充実が急がれます。

私が所属する久里浜医療センターは、日本で最初にアルコール依存症の専門病棟を開設した病院であり、この領域ではわが国唯一のWHO研究・研修協力センターに指定されています。私は臨床に携わる傍ら、研究にも従事しています。現在とくに興味を持って取り組んでいる課題は、①1000万人もいると推計される大量飲酒者への効果的な介入法を開発すること、②アルコール依存症のリスク要因としての性格特性について検討することの2つです。臨床の現場で働く者として、基礎と臨床との橋渡しができるような仕事をしたいと考えています。

伊藤満さん（Mitsuru ITOH）

【ご所属】 国立病院機構久里浜医療センター

【ご連絡先】 itmtr@hotmail.co.jp

【ホームページ】 <http://www.kurihama-med.jp/>

【その他】 臨床心理学のなかで依存や嗜癖はニッチな領域ですが、認知行動療法をはじめとした心理療法が治療の柱となっていることから、心理学の専門家の活躍が期待される分野でもあります。少しでも興味のある方がいらっしゃいましたら、ご連絡いただけますと幸いです！